巻頭特集

みんなで食べると おいしいね！楽しいね！

蛍池こども食堂

全国的に広がりを見せる「子ども食堂」の活動を、蛍池でもやってみようと立ち上がった人たちがいる。
「ひとりで食事をとる人や地域の人たちが集まって楽しく食べられる場をつくりたい」という
熱い思いが重なり始まった『蛍池こども食堂』を取材した。

「子ども食堂」に興味を持つ人が集い、スタートした

阪急・大阪モノレール「蛍池駅」すぐの複合ビル『ルシオーレ』へ行くと『蛍池こども食堂実行委員会』の主宰者・宮原味佐子さんが出迎えてくれた。以前はグランドホステス、現在は同ビル内で海外の雑貨を取り扱うショップや英語教室を運営。福祉活動とはまったく違う仕事をする中で、なぜ「子ども食堂」を始めたのか。

「最近よく耳にする〝孤食（ひとりで食事をすること）〟をなくしたいと思ったことがきっかけ」と話す宮原さん。核家族化や親の共働き、高齢者のひとり暮らしなどライフスタイルの多様化により、ひとりで食事をとる人が増加している。「みんなで楽しく食事をとれる場所があったらなぁと思って。私が食べること大好きだから特にそう感じたのかな」と明るく話す宮原さん。しかし、いざやろうと思っても、自身が福祉に携わってきた経験はなく、専門の知識もない。ひとまず市内（庄内）で活動している『ぐーてん　こどもしょくどう』の主宰者・佐々木妙月（みょうげつ）さんが知人ということもあり、相談へ。模索を続ける中、ある日、佐々木さんから一本の連絡が。『ルシオーレ』内にある『カレーハウス　ガラム』の店長が「子ども食堂」に以前から興味を持っているらしいという内容だった。

『蛍池こども食堂実行委員会』主宰者
宮原味佐子さん
明るく気さくでお話上手。「お客さんからもらうメッセージが活動の励みです」と話す。

「まさかこんな近くに同じ思いの人がいたなんて！」と、宮原さんは早速連絡を取り、実現に踏み出した。記念すべき第一回目は2016年11月。スタッフ皆初めての経験で開店前はドキドキだったが、そんな不安をよそに、大人、子ども合わせて73名が来店。大盛況を収めた。「思いは声に出せば形になるんだと実感しました」と宮原さんは微笑んだ。

おなかも満足 大人は一息つける場所

「子ども食堂」というとサポートが必要な家庭や子どもへの支援活動として捉えられがちだが、『蛍池こども食堂』は対象を限定せず、地元の子どもや保護者、近所に住む人など幅広い客層が訪れるのが特長。子ども200円、大人300円で利用できる。宮原さんは「子どもたちには来て欲しいけれど、ひとり暮らしの人やお年寄り、仕事終わりや食事をつくる元気が出ないお母さんたちが『ちょっと食べて帰ろっか』と気軽に立ち寄れる場所だといいな」と言う。

活動は毎月第3月曜日の17時～20時。月曜日は『カレーハウス　ガラム』の定休日で店舗が会場に。告知に50食限定と掲げているが「足を運んでくれた人を大切にしたい。多くの方に喜んでもらえるなら」と腕を振るうのは店長・榎本 守さん。たくさんのカレーと、毎回多方面の人たちから寄付として贈られてくる食材を生かし、おかず数品を準備する。なんとおかわりもOKで、多い子だと3杯も食べてしまうというからびっくり。プロの味を堪能できる、贅沢な夕飯だ。

いつも開店から程なくして店内は満席に。1人でやってきて、隣の席の子とワイワイおしゃべりしながらカレーをおいしそうにほおばる子、親子で来た子は食事後、子ども同士で遊んだり工作したり。お母さんは他のお客さんと子育ての悩みや地域の情報を交換し合い談笑する姿が。子育て中のちょっとした息抜きの場にもなっている。

キャビンアテンダントの友野さんと楽しそうに遊ぶ子どもたち

ペットボトルと風船で作る空気鉄砲。宮地さんに教わりながら子どもたちも真剣

スタッフやゲスト、お客さん みんなでつくる温かな空間

取材当日は第8回目の開催日。この日も店前に並ぶ人が出る盛況ぶり。忙しく立ち回るスタッフだが、みんななんだか楽しそう。「地元のために何かをしたい」と初回から毎月参加している備後卓矢さんは、地元愛に溢れる小学生のパパ。子ども同士が学校で「今日食堂行く？」と話していると知り、にんまり。「回を重ねるごとに子どもだけの参加が増えて、第4回目に子どもの数が大人を超したんですよ。子どもの口コミは強力ですね」と笑う。工作スペースは、活動の立ち上げから参加している宮地和夫さんの担当。この日はペットボトルの空気鉄砲を作り射的で遊んで大盛り上がり。これまでに絵本作家の三岡有矢音（みつおかあやね）さんや、『ルシオーレ』の催しに出場していた歌手・新菜（にいな）ひかりさんと伊禮恵（いれいめぐみ）さんがゲストで来てくれたこともある。8月には「夏休みスペシャルイベント」を計画中だそう。食事以外の楽しみがいっぱいなのも同食堂の魅力だ。

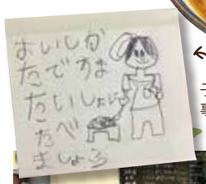
ボランティアは随時募集している。開催当日に配膳や調理補助、接客対応を行う。初めての人も大歓迎。今回は接客対応で現役キャビンアテンダントの友野亜沙華（あすか）さんが制服姿で初参加。お客さんに空の旅気分を味わってもらう演出も。同じく初参加の中池秀夫さんは、子どもを店まで送り、「後で迎えにくるね」と話す親子の光景を目にし「子どもだけで行かせられるほど安心できる場所なんだと思いました」と感心した表情。

様々な交流の中、温かい時間が流れる『蛍池こども食堂』は皆の心地良い居場所となりつつある。お客さんたちは元より、参加したスタッフも「また来たい」と口をそろえる。「楽しくおいしく食事をとってほしい」と各々が得意なことを活かして同食堂を作り上げているスタッフの想いが、確実に地域の人々に届いていると感じた。

この日のメニュー

カレー/揚げナス
コロッケ/コーン
エビフライ
メンチカツ
野菜炒め
スイカ
さくらんぼ

さくらんぼは、同食堂の活動を知った山形の『滝口果樹園』からいただいたもの



子どもからのお礼のメッセージ。毎回食事後にお客さんに書いてもらっている。

取材協力

宮原味佐子さん　榎本 守さん　備後卓矢さん

「皆さんの温かいご支援にいつも助けられています」

蛍池こども食堂実行委員会事務局
豊中市蛍池中町3-2-1　ルシオーレ2F
インパクト英会話内
TEL.06-6398-7133／FAX.06-6398-7132
Facebook（「蛍池こども食堂」で検索）で
情報随時発信中